

RI 承認No. 013856
国際ロータリー第 2550 地区
益子ロータリークラブ



益子ロータリー会報

No. 2165 例会



2025. 4. 23 (水) Vol. 39

第 2 回家庭集会報告

月間テーマ《環境月間》

2024～25 年度 佐藤広志会長テーマ
『銀報・報暁』



RI 会長 ステファニーA. アーチック
第 2550 地区ガバナー 市田 登

司 会

小幡正之 SAA

ロータリーソング

♪ 4 つのテスト ♪

会長あいさつ

佐藤広志会長

本日は、逆川保育園で保育参観と保護者会総会が開催されました。理事長としての挨拶と今年の逆川保育園の方針などを話しました。金曜日は、茂木中央認定こども園で、保護者向けに 30 分程話をします。内容は「集団保育の基本」という題です。家庭から保育園に来ると成長も見られますが、発達危機やトラブルも頻繁に起こります。それらを乗り越えて成長します。集団生活は楽しいよ、保育園はいいよ、と伝え保護者の協力を求めています。現在は少子化ですので、保育園でのケンカやケガ、病気などが保護者の心配の種です。慣らし保育、食物アレルギー問題、離乳食、カスハラ、不適切な保育、感染症対策、暑さによる活動の制限など、保育環境を巡る問題はありますが、一つずつ対応しながら子供の健やかな成長に寄与したいと考えています。

保育の基礎基本を話す中で、益子 RC も集団で組織なのだと再確認しました。奉仕の理想の原点に戻り、会員間の様々なトラブルや問題を乗り越えながら互いに成長する機会がロータリーにもあることを再確認しています。「標準ロータリークラブ定款」をめぐりながら、ロータリーの原点を確認し、残された 2 ヶ月間を会長として運営し、

次期会長にバトンを渡せたらと考えています。

ドキドキ、ワクワクですね。

第 4G ゴルフコンペ報告(4/22)

関口勝義会員

* 団体優勝～優勝賞金 3 万円と胡蝶蘭

個人優勝小幡君・2 位関口君・3 位～高根沢君
4 位西口君・5 位柳君

皆さんおめでとうございます。

< 第 2 回家庭集会報告 >

第 1 班

宮下 潤副班長

3 月 29 日(土) とんかつちとせ 午後 6 : 0 0

① 会員増強と出席率向上

- ・前回候補に上がった人へのフォローがされなかった。
- ・フォローの仕方を考える(会長・幹事・増強委員長・推薦者)
- ・新たな候補者(岡田内科・松谷クリニック 陶芸家萩原芳典さん)

② 奉仕内容見直し

- ・3 町クリーン作戦は継続する。
- ・財団補助金活用事業も継続、こども食堂への新米と絵本等の本を購入と会員提供。
- ・陶芸教室も継続するが、中学校参加が年々少ないので検討する。ロクロ、手びねり、絵付けも検討する。

③ 創立 50 周年記念について(4 年後)

- ・資金の集め方

会 長 : 佐藤 広志
副 会 長 : 高根澤良一
幹 事 : 豊田 有子
会報委員長 : 直井 睦
会 報 委 員 : 牟田 紀一
: 日下田 正

事務局 : 栃木県芳賀郡益子町益子 1593
TEL・FAX 0285-72-7474
E-mail : masikorc@gaea.ocn.ne.jp
例会場 : 益子町上大羽 2268 益子カントリー倶楽部 2 階
TEL 0285-72-1234 FAX 0285-72-1231
例会日 : 水曜日 12 : 30～13 : 30

- ・記念誌・講演・祝宴などを実行委員会を立ち上げる。

④その他

- ・毎回のニコニコ BOX を年会費として全員から集める (3,5 万～4 万)
- ・新入会員へのオリエンテーション
- ・卓話で会員職業の話をしてもらう。

第 2 班

小幡正之会員

4 月 5 日 (土) 絵里珈 午後 6 : 0 0 ~

①会員増強

- ・前回の候補者に加え、芳賀町の平石工業。関東金属など。
- ・会費が高い。

②奉仕活動内容見直し

- ・「陶芸教室」は、つかもと(株)と値段の交渉をしてろくろ・手びねり・絵付けを行う。
- ・参加者を小学生のみにする。
- ・食事(弁当)は、各家庭 2 個までとする。それ以外は有料。
- ・「サッカー大会」町のサッカー協会と相談をする。
- ・「地区補助金」高根澤年度も新米提供で申請した。今年はお米の高騰で相談に来た家庭に 5 キロ配布した。

③創立 50 周年記念

- ・実行委員長を決め、委員会を立ち上げる。
- ・積立も考える。

④その他

- ・誕生・結婚祝は、会員の誕生祝だけにする。
- ・例会出席は、新入会員への説明不足もあるのではないか。
- ・推薦者が例会に出て貰うように声かけをする

第 3 班

佐藤浩副班長

3 月 18 日 (火) 釜平寿司 午後 6 : 3 0 ~

①会員増強

- ・市員在住の小林司法書士。
 - ・益子町西村会計事務所。横山陶芸
- <出席率を上げる為に>例会日の変更。
- 他クラブへのメーク(推薦者が一緒に行く)ロータリアンとしてメリット～人脈
- 夜間例会～昼間は仕事で出づらい。
- 会費が高い～若い人には負担がある。
- 海外では、早朝の例会もある。
- 会員の仕事内容が分からない。卓話の自己紹介では話が出るが、もっと詳しく知る機会があると良い。

②奉仕活動内容見直し

- ・「陶芸教室」のろくろを外す案(金額が高い)保護者への食事負担。費用面で検討する
- ・「サッカー大会」の費用。
- ・陶芸教室とサッカー大会を交互に実施。
- ・「こども食堂」の見学。提供したお米がどの様に使われているか知ること、奉仕活動の意義を確認。モチベーションも上がる

③創立 50 周年記念

- ・過去の実績について聞いた。
- 20 周年～益子町役場のモニュメント
予算 500 万円、古郷さん作
- 30 周年～益子駅前のボラード 300 万円
- 40 周年～踏切り脇の大壺モニュメント
200 万円
- ・記念誌は残したい。記念品の用意。
 - ・積立開始時期、実行委員会立ち上げ。

④その他

- ・余談ですが、財源を得る為に何かチャリティーイベントみたいなものやってはどうか。

退会のあいさつ

西口俊彦会員

本日が最後の例会となりました。昨年の5月から短い期間でしたが、ロータリークラブ会員として充実した一年を過ごさせて頂きました。懇親会や家族会等にも楽しく参加させて頂きました。

基本、例会場はここでやるのが本筋だと伺っていたので、精一杯やらせて頂きました。

今回、私事で離れることになってしまいました。この仕事に就いて23年ぐらい単身赴任でいました。殆どが立て直しをやってきました。

益子のコースに関して、今のコースは良くなって団体優勝できるコースになりました。

コースが一番だと思っており、コースが良くないとお客さんも来ないと思っております。また、評価も以前は3.9でしたが、今は4.2まで上がりました。ここでは、3つの柱を立てていて、

- 1、コース
- 2、レストラン食事
- 3、接客

この3つをしっかりとやってきました。今は、非常にお客さんも多くなり、学生選手権も開催することになり、若い方がプレーしたり宿泊したりしています。皆様もこれから長く、楽しくやっていただくことを願って挨拶といたします。ありがとうございました。

ニコニコ BOX

佐藤浩委員長

西口君 短い間でしたが、充実したロータリアン時代を過ごせました。有難うございました。

伊藤君 西口様、今迄ありがとうございました。
清水君 西口会員、大変お疲れ様でした。

平野君 西口会員、お世話になりました。

堀中君 西口会員、今迄お世話になりました。お元気で。

佐藤浩君 西口様お疲れ様でした。

佐藤会長 西口会員、大変お世話になりました。家庭集会報告、コンペ結果、大船渡山林火災見舞い報告をお願いします。

小幡君 家庭集会で検討した事項が実現できると前進しますね。

2班の残金は、過分にニコニコに入れました、よ。

富田君 大船渡山林火災見舞いに行ってきました。

<家庭集会報告ありがとうございます>

<西口会員、お世話になり有難うございました>

関口君 塚本君 直井睦君 長尾君
広木君 三村さん 宮下君 柳君

大船渡山林火災見舞い報告

富田兵哉会員

4月12日(土)、私と塚本和也会員、真岡の岡本会員、下野の山本会員の4名で行って参りました。真岡・益子・真岡西の3クラブからの総額453,000円をお渡しいたしました。陸前高田の道の駅で待ち合わせをして、濱守パストガバナーと地区幹事の門田さんが山林火災現場を案内してくれました。

焼失面積は、益子の町の3分の1の面積だそうで、家が200件位、車や山の中の機械なども燃えていました。栃木県からも消防隊員200名、ヘリコプターも13機応援に行きましたが、最後鎮火したのは雨だそうです。



我慢しなくてもいい避難環境を構築する

避難所・避難生活学会常任理事 水谷 嘉浩

日本では大規模災害が発生すると、直接的な被害による「直接死」だけでなく、避難生活の影響で亡くなる「災害関連死」も問題となります。2011年の東日本大震災では約1万6,000人が直接的に亡くなり、約3,800人が災害関連死と認定されました。16年の熊本地震では直接死50人に対し災害関連死は218人、24年の能登半島地震では直接死228人に対し災害関連死は287人と報告されています。

災害関連死とは、避難生活の長期化や医療体制の不備、ストレスなどによる健康悪化が原因で亡くなった場合と言われています。しかし、これは災害弔慰金（災害による死亡者の遺族に支給される公的支援）の支給対象者を基にした数字であり、必ずしも全ての避難生活中の死亡者を含むわけではありません。

災害関連死の認定は統一基準がないので、災害関連死の多い少ないは必ずしも自

治体の対応の良しあしを示すものではありません。だからこそ重要なのは、「避難生活死」をなくすことです。そのためには、被災者のQOLの維持ができるよう、快適で安全な避難環境の整備（TKB 48）、医療・福祉の支援体制の強化が大きな鍵となります。

下記写真の避難所をご覧になればお分かりのように、日本の避難所の様子は30年たっても変わっていません。本格的に災害に備えるべき時が来ています。

30年たっても変わらない避難所の風景



提供 朝日新聞社

1995年阪神・淡路大震災



2024年能登半島地震

写真提供：避難所・避難生活学会 監修：水谷嘉浩；発災後、48時間以内にトイレ、キッチン、ベッドが整備される「TKB 48」の名付け親は水谷氏と、先月号「水と衛生」特集掲載のNPO法人日本トイレ研究所の加藤篤氏。TKB 48についてもっと知りたい方はこちら→

「パックス(株)」→



←(一社)避難所・避難生活学会

ロータリーができることを考えてみよう！

横浜旭RC災害対策委員会 五十嵐 正

東日本大震災をきっかけとして当クラブ内に、災害対策委員会を設けました。被災地を訪れた際、宮城県・岩沼ロータリークラブ（RC）の案内を受けたことから交流が始まり、どちらかのクラブが被災した際、情報収集や物資の支援活動を代わりに行う災害時相互支援協定を2015年に締結しました。

16年4月の熊本地震、被災地に支援を申し出ると、やたら連絡をよこすなど、東日本大震災の時と同じことを言われました。被災された方のつらさを考えると致し方ないこと。そんな中、被災した地区のガバナー補佐を通じて7月に現地訪問することができました。その結果、仮設住宅に住む被災者の移動手段として自転車があることを知りました。そこで、横浜市から提供いただいた放置自転車100台を、熊本県・宇土RCの協力を得て、整備をし、被災地に寄贈することができました。会員が汗して動いた結果です。

被災地では、全国からの義援金がさまざまな事情でう

まく活用されていないことがあります。そこで当クラブは第2650地区が地区災害対策基金を設けていることに倣い、災害時にクラブですぐに使える横浜旭RC災害支援基金を19年に設けました。

支援し備えることの重要性を知った私たちは、昨年3月、横浜瀬谷RCとの合同例会の際、避難所・避難生活学会の水谷氏にイタリアの防災事情について卓話していただきました。その内容をぜひ地域の人たちにも聞いてもらいたいと、12月には「防災先進国イタリアに学ぶ防災のTKB」と題した講演会を実施しました。

当クラブではクラブ間の災害時マッチングサイト開設を検討中です。支援が必要なクラブがサイトに情報を書き込み、それを見た支援可能なクラブが手を挙げるというものです。クラブ単独では難しい事業でも、他クラブの協力があれば実現できます。いざというとき、ロータリーのネットワークが大きな支援につながることを期待しています。

(第2590地区 神奈川県)